

ブロッコリー

1. ブロッコリーの魅力

1) 作付体系

凡例 : 播種 : 定植 : 収穫

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型	初夏どり	_____		_____		_____		_____		_____		
			_____	_____			秋どり	_____	_____	_____	_____	

2. 栽培のポイント

- ・1日あたりの収穫可能数量を推定して計画的に段播きし、取り遅れのないようにする。
- ・秋どりでは早播きを行なうと花蕾の品質が悪くなるため、播種は7月下旬以降とする。
また、この時期は害虫の発生が多いため、定期的な防除を実施する。

3. 栽培の手順

1) 育苗

播種

- ・育苗に必要な床土量は128穴セルトレイで5ℓ/枚、72穴ペーパーポットで10ℓ/枚。
- ・種子の大きさの2~3倍の深さで1穴に1粒ずつ播種し、覆土し、新聞紙で覆う。
- ・発芽を確認したら、夜のうちに新聞紙を取り除く。
- ・温度計をハウス内および育苗床に設置し、適正な気温、地温管理に努める。
- ・本葉展開までは適宜かん水を行う(できるだけ早朝に、夕方には乾く程度)。

温度管理

- ・初夏どりの場合は電熱温床での育苗を行う。温度管理については以下の表を参考にする。



写真1. 育苗の様子

表1. 温度管理の目安

ハウス内温度		播種～発芽	子葉完全展開時	子葉完全展開時以降～定植前	定植 3 日前～定植
気温	日中	25～30	20～25	18～20	寒さに馴らし、定植後の活着を促す。
	夜間		10～15	10～15	
地温	日中	20～25	15～20	13～15	
	夜間	(25 に設定)	(20 に設定)	(15 に設定)	
備考		濡れ新聞紙をかけて乾かないようにする。	育苗期間は、土が乾き過ぎないように少量ずつかん水し、根の発育を促す。		

・秋どりの場合は高温期での育苗となるので、遮光などを行ってハウス内温度および地温が上がり過ぎないように十分注意する。

2) 圃場準備

圃場の選定

・排水の良い圃場を選定する。また、排水路の浅いところや水のつきやすい圃場は避ける。

圃場の排水対策

- ・溝堀機などで額縁に明渠を掘って、耕うん・畝立て時に圃場が乾燥するようにしておく。
- ・特に排水が不良な圃場では振動サブソイラーや弾丸暗渠などで心土破碎しておくが良い。

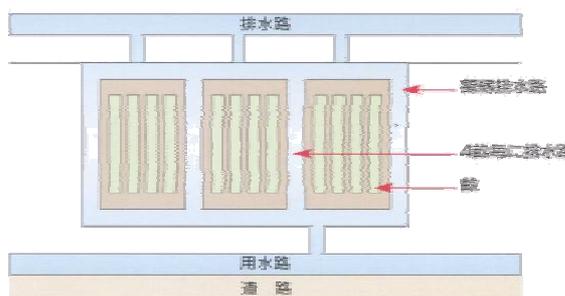


図1. 圃場の排水路の模式図

施肥

・定植2週間前に堆肥と石灰質資材を散布し耕うんする。定植7日前に基肥を全面施用し、畝を立てる。 施肥例 (kg / 10a)

肥料名	基肥	追肥	追肥
完熟堆肥	2,000		
石灰質資材	140		
ようりん	40		
あさひ	40		
そ菜3号	70	20	20
マルチサポート1号	60		
成分量	N24.0 P23.0	K20.2	

耕うん・畝立て

- ・圃場表面が乾いている状態の時に基肥を施用し、直ちに耕うん・畝立てを行う。
- ・畝は畝立機などで25～30cmの高さを維持する。

ブロッコリー

3) 定植

- ・定植は、セルトレイでは2～2.5枚、ペーパーポットでは3枚程度の適期の苗を定植する。
- ・定植方法は、2条植えで畝幅120cm、条間50cm 株間40cm(10aあたり3,500本以上)とする。
- ・初夏どりは晴天日の地温の高い午前10時～午後3時の間に定植する。

秋どりは地温の高い日中を避け、夕方に定植する。

- ・深植えにならないように定植する(ポット表面が圃場の土で隠れる程度)。

- ・4月の定植でも気温が低ければ、不織布等の被覆資材で保温する。

- ・秋どりは定植後の活着促進のため畝間かん水を行い、夕方に入水し朝までに落水する。



写真2. 定植後の様子

4) 追肥

- ・定植10～14日後の土寄せ前および花蕾が見え始めた時期に、遅れないように施用する。

5) 除草対策

- ・定植活着後～定植14日後までの雑草の生えていないときに、土壌処理剤を規定量散布する。また、畝間の雑草を抑制するため、雑草が生え始めた頃に除草剤をブロッコリーにかからないように散布する。

- ・除草剤を使用しない場合は、中耕や手取りなどを行い、雑草を除去する。

6) 収穫

- ・早生品種ならば播種後約90日で収穫が始まる。
- ・花蕾の大きさが12cmくらいになったもので、未開花の固くしまった花蕾を収穫する。
- ・特に初夏どりは収穫適期が短いため、圃場をよく見て収穫時期を逃さないようにする。
- ・収穫は品温が低い午前中に行う。



写真3. 収穫適期のブロッコリー



写真4. 収穫遅れのブロッコリー

7) 病害虫防除

- ・害虫については期間を通じてコナガ、アオムシ、ヨトウムシが発生し、特に秋どりではハスモンヨトウの発生が多いため定期的な防除が必要となる。
- ・病気については、秋どりで黒腐病や軟腐病の発生に注意する。